

## ガーダシルの犠牲者：クリスティンさん

Kristin Clulow 28歳 ニューキャッスル、オーストラリア

2011年7月31日 SaneVax.org に投稿されたもの



まとめ：私の名前はクリスティンです。28歳で、オーストラリアのニューキャッスルに住んでいます。3年前、3回のうちの2回、ガーダシルの注射を受けました。これらの注射にひき続いて、無数の健康上の問題を堪え忍んできました。私の免疫系と神経系は“食べ尽くされ”ました。すなわち、神経を取り囲むミエリン鞘は融解し、私の白血球は白血球自身を攻撃し、小脳機能がスイッチで切り離されました。話すこと、歩くこと、書くこと、食べることができませんでした。よく体が震えていました。私はADEMであると考えられ、12ヶ月間、免疫グロブリンの静脈内投与を受けました。自分の知っているかつての体の一部でもとり戻そうと、痛みを伴うリハビリテーションや広範囲の運動を行いました。早いもので3年経ちますが、それはやる価値がありました。ほとんどの機能が回復しています。出来ないことが沢山ありますが、これらを取り戻すと決めています。最近、教育学の修士課程（中等教育）を完了しましたし、最も重要なのですが、小脳機能のスイッチが再びつながったのです。

これは奇跡であり、私の医師は啞然としました。本当に、誰が脳の不可逆的損傷から回復したのでしょうか！

私に出来ることはあなたにも出来ます。自分がそうあらねばならないと考えるまでは、自分がどんなに強いのか分かりません。私が最悪だったとき、2つの選択肢がありました：おぼれるか、泳ぐか、です。泳ぐことを選択しましょう。あなたの人生をコントロールし、あなたがどんなに素晴らしいか、皆さんに示しましょう。あなたの話を信じる医学の専門家を得てください、素晴らしい友人や家族に囲まれてください、さらに私の場合には、信仰を持って神を信頼したことは回復には不可欠でしたし、今でもそうです。

トンネルの終わりには — 列車でなくて — 光があります！ あなたが誰かに話をしたい場合には、Facebookに私（Kristin\*\*\*\*\*）を追加したり、kristinclulow@\*\*\*\*\*宛てに私にメールしてください。

クリスティンのオリジナルな話：まず初めに、免責を述べなければなりません、ここはガーダシルの犠牲者に捧げられたウェブサイトではありますが、私の種々の症状を直接的にワクチンと結びつける証明はありませんが、個人的な広範な調査および、高度に勉強した医学専門家は、一つの引き金としてガーダシルを指摘しております。

私は26歳です。2008年の5月と8月 — ガーダシルを2回注射しました。この時から、私の人生が変

わりました。病気になる前には、4つの異なる仕事をし（週あたり100時間超）－ ビジネス開発／マーケティング／イベントでの領域の、トップの会計事務所で働いていました、舞台芸術学校（450人以上のクラスの入学者）を管理し、新聞販売店の顧客サービス小売り部門で働き、納税申告書の準備をしていました。いつでも仕事の間を走り回っていました。－ でもそれが好きでした。21歳のとき最初の家を買ひ、それを改修し、もう一つの家、さらに3階建てビルを買ひました。いつも次のプロジェクトを探して、絶えず活動的でした。ビジネスの学士号（労使関係/人事・管理の2つのメジャー）を持っていて、他の様々なコースも完了していました。職場の同僚や上司から高く評価され、常に優れた労働者であると考えられていました。音楽の能力と芸術的の能力にかなり優れていました。ピアノでは最後の段階まで進み、音楽の研究を終了し、指導資格を取得する計画でした。元気で健康的で、ほとんどのものに参加するおてんば娘でした。酒をのみませんし、タバコも吸いませんし、薬物もやりませんし、体に害を及ぼす可能性のあるようなものも摂りませんでした。肥満ではありません（55kg程度）。外出、スポーツを好み、友人とは社交的でした。とにかく外向的で社交的でした。

2008年3月、最初のワクチン注射の2ヶ月前ですが、結婚が破綻しましたが、それはストレスの原因となり、免疫の低下につながり、免疫に衝撃を与えたと思います。引越をし、新しい職につき、新しく見いだした独り暮らしを楽しんでいました。5月に最初の注射しました。2週間後、空手で転び、左足の骨を折りました（準備運動でうさぎ跳びをやっていたときです）。ここで指摘しておかないといけないんですが、私は極めてタフで、骨折したりケガしたりすることはそんなにありませんでした。というのは、一週間前、練習していましたが、ひじの擦り傷から出血していたあとも練習を続けていたくらいですから。骨折したとは思いませんでしたが、次の日の朝、ミーティングに出なければならなかったので、うまくバンソコローするのがベストと考えていました。

足の小指の骨を骨折していました。6週間ムーンブーツ（防寒用の大きな靴）と松葉杖と、6週間の安静と昇進（なんとうまい言い方でしょう！）に縛り付けられました。でもそれはおこりませんでした。資産運用会社の責任者の執行助手として、来週から新しい仕事を始めることになっておりましたので、痛み止めに頼って生活し、大概の夜は外出していました。6月にタイに出かけなければならなかったのですが、キャンセルしました。

私は、この時点では何一つガーダシルと関連づけることはせず、不器用になったのだと見なしていました。2008年8月に2回目の注射をし、間もなく松葉杖がいらなくなりました。9月に（父の日の週の週末、注射から4週間後）、目が見えなくなりました。木曜日の夜、目が痛みはじめ、コンタクトレンズを外し、めがねをつけました。金曜日にはさらに悪くなり、赤くなり、視力はさらに悪くなり、眼科へいきましたが、眼科医はコンタクトレンズが角膜の表面をはがしたのだらうということでした。考えてみてください、こんなことは後にも先にも決して起こったことはなかったのです。点眼薬と軟膏を処方され、週末は見えないようにといわれました。私としては、次の日、新聞販売店で働かねばならず、車を30分運転していくと（愚かな考えだったのですが）、バカだ、家に帰って休め、といわれました。目がとても痛かったのでそうしました。後に、失明したかもしれないといわれました。目は治り、きれいになりました。いろいろなことが徐々に起こり始めました。具合わるく感じ始め、一つわりに似ている

(そう思います) 一、一日中吐き気がしました。食べ物をみると、食べなければと思っても、毎晩吐いてしまいました。とつても疲れていても、眠れませんでした。吐きながら、うたた寝したり目覚めたりでした。私は食べることが好きで、一 大食漢ではないんですよ 一 そんな感じでした。体にバグがあると考えて、すぐ取り除けるだろうと考えていました。医者(ガーダシルの注射したところと同じ)に行き、神経が挟まったのだろう、直るだろうといわれました。

ここで指摘したいのですが、私は、離婚のこと、その後に起こったこと、足の骨を折ったことは一般医に話しており、注射の前にこういうことを知っていたはずですが、それでも注射をしました 一 そして、副作用の可能性については警告しませんでした。私は、足のために理学療法士のところに行き、バランスと協調運動を回復していました。自分で、なぜ壺から玉をとりだし、また元に戻したのか、わかりません。これで苦しんでいたのです 一 奇妙ですが。理学療法士は、一般医のところへ行って神経内科医への紹介状を書いてもらうことを薦めました。(またしても、ワクチンをしたその人に助言を求めたのです)。一般医は、検査上は何も異常が無いと言いました(彼らは耳をしらべて、膝蓋腱反射をただけなのです)。神経内科に予約して診てもらうのは相当早いと言われました。私は一日一日と、具合が悪くなっていきました。何故だかわかりませんでした。あたかも毒を盛られている感じでした。私は気が知れないくらいの時間を働いていましたが、その段階で、手書きで字が書けなくなりましたが、それは忙しい人々をまとめる仕事の責任者にはまずいことでした。記憶にとタイプに頼り、とにかく普通のひとができることを補っていました。

もっと悪いことには、体の右側が麻痺していましたので、私の半身を引きずっていました。走ること、踊ること、ジャンプすることができず、歩くことも出来なくなっていました。アヒルのように歩き、靴が脱げてしまい、全くバランスと協調運動がうまくありませんでした。すべてのことを左手で行うことを学ばねばなりません。眼前が真っ暗になるめまいがし、階下へ落ちました。(そう、コンクリートの階下に落ちました)。たとえばコーヒーテーブルのように、見えていて実際そこにあるのは分かるのだけれども、しかし、走り寄ることはできません。もう、ヒールのある靴は履けません。震えるようになりました。何かをやることがさらにと難しくなりました。体全体が震え、飲み物や食べ物の皿を、あちこちにこぼさずに運ぶことはできません。頭がすっきりせず、ものが二重に見え、右目では見落としがおこりました。

11月に祖父が亡くなりました。数ヶ月間のうちに、私の知っている世界は消えました 一 私の知っているものをすべて失いました 一 夫、仕事、家、健康、家族 - 誰もこんなことを味合うはずがありません。このことも指摘しなければなりません:私の免疫システムは打ち壊されてしまいました。かてて加えて、あらゆる風邪やインフルエンザによく罹ったので、そのことがわかりました。風邪のため一週間動けず、他の人たちよりもひどくやられました。みんなはストレスのせいだと言いました 一 私はストレスでないと言っているのに。ストレスはこんなことをしません。

私は両親に会いにいき、何かが悪いんだと強調しました。自分はドラマ・クイーン(取りとめもないことと言って気を引こうとする人)ではないと言わなければなりませんし、死ぬときは医者のところに行き

ますよ。同じ週、母は私のために医者診察の予約しました。一般医の（テッド・ベネット医師）のところへすぐ行きましたが、医師はどこか免疫がおかしいとわかったようですが、彼には説明出来ないというのでとても失望しました。彼は紹介状に、単純に“奇妙な”と書き、次の週に神経内科医（ミッチェル・カテカー医師）の診察を受けるように予約をとってくれました。彼は私をMRIの検査に送り、多発性硬化症（MS: Multiple Sclerosis）と診断しました（MRIには所見がないのだけれども、症状が似ているので）、3日間入院しメチルプレドニゾロンの点滴療法をしました。この治療は殆ど効果がありませんでした。私は具合が悪く、汗をかき、しかし、多分同じでした。

MSとする証拠がなかったのもより多くのスキャンを行いました。山を築く程の沢山の検査を行い、少しでも改善するならば、東洋医学の治療法を探しましたが、しかし、すべては持続的な効果がありませんでした。とりわけ以下の検査のために、MRI/CT、X線検査をしました：甲状腺、サルコイドーシス、多発性硬化症、脳腫瘍、脳卒中、バックスキャン、フロントスキャン、2回の脊髄穿刺、視覚刺激電位検査、刺激誘発電位検査、脳幹誘発反応聴覚検査、脳波2回、PETスキャン、全身性紅斑性狼瘡（Lupus）と、（よりによって）ヒト後天性免疫不全ウイルス（エイズウイルス）の沢山の血液検査。

私は何が起こったのかわからなかったもので、2008年12月にエグゼクティブアシスタントの仕事の役割をあきらめました。正常ではないことを知っていましたが、何故なのかはわかりませんでした。1月も仕事を休まねばならず、ソファから立ち上がるように自分自身に強制しなければならなりませんでしたが、—ピン留めできないほど活発な女にとっては、—それは異常でした。私はシドニーの神経科（教授はマイケル・ハルマギ）にセカンドオピニオンをもらうために会いに行きました。彼は、彼の意見で、また他の医師の意見でも、ワクチンだといわれました。6月までに、16人の女の子が同様の症状を呈したとのことでした。彼女らはすべてメチルプレドニゾロン治療に反応していました。私は11月にこの治療法をやったこと、反応しなかったことを伝えました。彼はこの治療のために五日間入院させてくれました。退院するときには、私が病気だったと言うことは、控えめな表現になります。汗をかき、幻覚、めまい、運調失調、正常に話せず、または正常に食べることもできませんでした。新聞販売店で私の古い仕事に戻りましたが、毎日具合が悪いと感じていました。

その後の数ヶ月（2月9日から7月9日まで）はさらに下り坂で悪化しました。震えもあり、運動能力が悪化し、話すことはもっと悪化していました。私の一日は、仕事、理学療法、医師、スキャンで一杯で—その間、適切に食べ、運動し、8時間夜の睡眠、週40時間労働—そんなのはもう無理でした。私は体の半分を引きずり、半ば正常に話そうと頑張りましたが、難破しました。7月に仕事をあきらめ、初めて、私の人生は私自身のものだと思います。生まれて初めて、私はわがままになりました。そして、それは良いと感じました！

ハルマギ教授、カテカー博士とマイケル・バーネット医師（私の免疫学者）の助言で、私はサンドグロブリン Sandogloblin と呼ばれるヒト免疫グロブリン治療のために、5日間の病院に戻りました。これは、静脈内投与されました。私の人生を救ったと信じるこの薬は、オーストラリアでガーダシルを製造する会社から購入する必要がありました。また、数週間前に、PETスキャン（Googleで検索）の検査を受け

ておりましたが、病院にいたときに結果が帰ってきました — 2つの主要な懸念の分野がありましたが — 私の卵巣は働き過ぎでした、運動機能を制御する小脳はスイッチがオフになっている — それは病気ではなく単に電球と同じように — 単にスイッチが入ってないだけでした。これは元のようにスイッチが入るという保証はありませんでした。私はそれを信じることを拒否しました。ずっと具合が悪かったところへ、さらに具合が悪くなり、心が固くなっていました。

すぐさま卵巣の超音波検査を受けましたが、問題はありませんでした。28日毎に“トップアップ（注ぎ足し）”治療（Sandoglobulinと同じことをするOctagamと呼ばれる薬を点滴注射すること、Octagamはヒトガンマグロブリン製剤）をしますが、これは、すべてうまくいき、ずっと続けなければなりません。徐々に、ゆっくりと改善してきました。それは悪化するよりずっといいものです。私の一日は、ジム（2時間の耐久性、ウエイトレーニング、トストレッチ、水治療、水泳）、作業療法、言語療法、調理、掃除で埋まっています。ニンテンドーのWiiが共同運動にすごく良く、またシングスター（カラオケゲーム）が話す訓練に合います。その他の運動については連絡ください、お役に立てるとうれしいです。消去法から、私はADEM（googleで調べて）と診断されています。基本的には、神経線維を取り囲んでいるミエリン鞘が食べ尽くされています。多発性硬化症（MS）と違って、古典的な激しく運動することで鞘は治ってきます。この病気はワクチンで起こることがあり、体の片方を麻痺させます。Googleによると、定義は以下のようなものです：急性散在性脳脊髄炎（ADEM）は、ミエリン鞘が傷つけられて起こる、脳、脊髄の炎症が特徴の神経学的疾患である。ミエリン鞘は、脳の神経の絶縁体として働く脂肪の覆いである。ADEMは細菌、ウイルス感染、あるいはワクチン接種の合併症、あるいは原因不明に起こる。発症は急性である。

症状は人によって変わるが、頭痛、譫妄、だるさ、昏睡、痙攣、頸部硬直、発熱、運動失調、視神経炎、横断性脊髄炎、体重減少である。他の症状は単麻痺（一肢の麻痺）、片麻痺（体の半側の麻痺）。この異常は成人より子供で起こりやすい。

先週、いくつかのオーストラリアの新聞がガーダシルと多発性硬化症の症状を結びつけ、すべての少女は回復した（何と耳に心地よい言葉でしょう！）という記事がありました。私の知られている限りの家族には、MSのような疾患の家族歴はないことを書しておきます。唯一の問題は、私は10代から多発性卵巣嚢腫をもって、避妊薬の服用を続けていたことです。家系には強いガンの傾向があり（それがワクチンをした理由）、しかし、母親はこの遺伝子をもっておらず、私にも伝わっていないのです。

次は何でしょう。今は働きませんが、私の一日は治療と運動に捧げられています。大学院卒業の学位を取るために、来年大学に応募します — 中等教育の修士課程です。フルタイムで2年かかりますが、その間、回復の時間が取れます。私は改善しています。ヒールを履き、スポーツをやり、ダンスをやるために100%回復するぞ、と思っています。働くのを待ってられません。同じような状態の少女を教えたいということも含め、沢山の計画を持っています。病気になって、人生で大事なことを理解させてくれました。